

訪問診療
について



まいる互版

在宅介護支援事業所

所長 奥谷はるか



こんにちは、奥谷はるかです。

最近、身近な人と話ししていた時に、「訪問診療ってどうやって始まるの？何か急に家で痛い！苦しい！となった人のところにいくもの？」という疑問を投げかけられ、何か違うけど、何が違うのかという説明できない…と答えに窮したことがありました。それをきっかけに訪問診療の適応とどのように訪問診療が始まるのかを改めて調べてみました。これはもしかして、このせせらぎの読者の皆さんにも役に立つ情報なのではないかと思ったのでここでご紹介します。

訪問診療とは？

訪問診療とは、医師が定期的に自宅を訪問するサービスのことです。多くは月1～2回の訪問で定期通院が困難な患者さんの自宅を定期的に訪問して診療を行います。冒頭で述べた急な事態で自宅を訪問することは、往診と言います。病院でしかできない検査（レントゲンやCT・MRIなど）はできませんが、身体診察や血液検査、超音波検査は実施できます。薬の処方だけでなく、訪問看護と連携して自宅でできる点滴をしたり、在宅酸素や胃瘻・ストーマの管理をしたり、生活状況の聞き取りや家族のケアも行います。

どんな人が訪問診療を受けることができるのか？

訪問診療を受けられる患者さんは、簡単にいうと病気や障害があって自宅から医療機関への通院が困難な人です。足腰が悪く移動できない方、在宅酸素を使っている方や、通院につき添える家族がいない方、認知症があって受診日がわからない方などなど理由は人によって様々です。状況も人によって様々で、慢性疾患や障害がありながらも安定した病状の方もいれば、がんや難病、心不全などで悪化していく病状の中、最期を自宅で過ごしたいという方もいらっしゃいます。

まず誰に相談したら良いのか？

実は通院するのが大変だと感じているけど、誰に相談したら良いのかわからない…と思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。訪問診療につながる窓口はたくさんあります。かかりつけの医療機関、町役場の保健窓口、地域包括支援センター、担当のケアマネージャーさん、入院中ならソーシャルワーカーさん、そして在宅介護支援事業所の窓口にご相談いただいても構いません。順序は気にせず、相談しやすいなと思った方にまず話していただくのが一番だと思います。

日野病院の在宅介護支援事業所では、経験豊富な訪問看護・訪問リハビリのスタッフがチームとして在宅での生活の支えになります。院内・外の医療機関とも連携し、日野町内に限らず、日野郡全域の医療が行き届きにくい地域に直接足を運び、日々奔走しています。これを読んで「うちのことじゃないか？」と思った方はぜひ、在宅介護支援事業所にご相談ください。

<連絡先> 【日野病院組合*在宅介護支援事業所】

☆訪問看護ステーション

0859-72-2706

☆居宅介護支援事業所

0859-72-2723



よろしく
お願いします

新しいスタッフを紹介します

理学療法士 佐田山晋佑

さだやましんすけ



① 出身地はどこですか？

米子市生まれ米子市育ち

② 趣味はなんですか？

体を動かすことが好きでしたが、
動かなくなってからは趣味がな
くて困ってます

③ 好きな食べ物は？

焼肉

④ 嫌いな食べ物は？

えび

⑤ お休みの日の過ごし方は？

もっばら子どものバスケット

ボールの送迎・応援

⑥ 学生時代の部活動は？

バレーボール

⑦ みなさんにひとことお願いします！

安全運転でみなさんのお宅にお邪魔
します！



研修医の先生が



訪問リハビリに同行されました

訪問看護、訪問リハビリの見学という貴重な体験をさせていただきありがとうございました。猛暑の中、外に出かけて業務をされていることの過酷さを身をもって知ることができました。今回経験したことを今後の糧にしていければと思います。お世話になりました。

鳥取大学医学部付属病院 森 海斗

ちょっと
一息



カップ麺と方言の話

在宅介護支援事業所 副所長 小原佐智子

朝ドラ「まんぷく」でお馴染みの、昭和46年に発売が開始されたカップ麺。

小学生のころ、我が家の話題になり始めたとき、母が一喝。

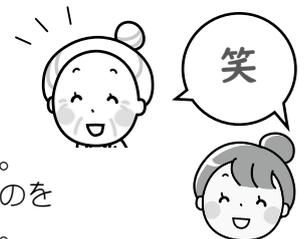
「湯でふやかしたやあなもん、いけん！」

袋めんは火を通すからよくて、カップ麺は、火が通っていないからだめなの？ 他にも、添加物はとても良くないもの、という母の認識だったようです。（あくまで我が実家の話です）

それを、我が娘たちに話したところ、大爆笑！「たしかに！ゆでふやかしたやあなもん」とばあちゃんのみねをする。こんなばあちゃんの日野弁を、娘たちが多用して、笑いを取ることも多々あり。（コミュニケーションツールにもなるのか！）そのほかに、

（例1）ばあちゃん：「ちょんばいやー」 娘：「？」

（例2）ばあちゃん：「どげすーだー」 娘：「?! どげすーだ！」



これらのブームはしばらく続きました。癒され、ほっこり笑顔になるようです。

小さい頃、後谷の山奥で鍛えられた下半身と、添加物のない地のもの、旬のものを食べていたおかげか、私は大きな病気をすることなく今に至っております。感謝。